

在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク(2)

— ソーシャル・スキル自然学習者における検討 —

○田中 共子¹⁾ 高濱 愛²⁾

(¹岡山大学社会文化科学研究科) ²⁾一橋大学大学院法学研究科)

キーワード：ソーシャル・サポート・ネットワーク、ソーシャル・スキル学習セッション、日本人留学生、米国留学

【目的】 異文化滞在者にとって、対人関係は異文化適応の資源とも困難ともなる重要な要因である。異文化滞在者のソーシャル・サポート・ネットワークの形成が進むと、そこから供給されたサポートが適応を促すという見方は、ソーシャル・サポートの適応促進仮説と呼ばれる。そして滞在先のソーシャル・スキルの獲得は、ホストとの関係を促すと考えられている。日本人大学生がアメリカに留学した場合、サポートを期待できるネットワークを、実際に構築できているのか、日本人とだけつきあうようなことはないのか、日本人とアメリカ人ホストとで期待できるサポートは異なるのか。こうした問いを巡って、本研究では、彼らの形成したネットワークについて、留学中の二時点を対象に調査をした。なお彼らは我々の先行研究(高濱・田中,2011)とは異なり、スキルの事前学習を受講しておらず、スキルに関しては自然学習者とみなせる。彼らの自然発生的なネットワークを報告する。

【方法】 <調査協力者> 約1年間、交換留学生として米国の大学で学んだ日本人留学生8名。彼らは、英語力については全員が留学先の要求を満たしていたが、対人関係形成に関しては特に事前学習をせずに渡米した。彼らはN群とU群に大別される。N群の4名(N1, N2, N3, N4)は、X大学の出身者で、これは別報(高濱・田中,2011)で紹介した、渡米前に留学準備教育としてアメリカン・ソーシャル・スキルの学習セッションへの参加者と同じ大学だが、U群はそれとは異なり、Y大学(U1, U2)とZ大学(U6, U7)の出身である。

<手続き> 留学中の2時点に関して調査を行った。(1)留学中調査(留学初～中期)：U群は渡米後3～4カ月が経過した留学初期に、N群は渡米後6～7カ月が経過した留学中期に、第一筆者が協力者の留学先を尋ね、N1,N2,N3,N4 およびU1, U2と面談した。質問紙を手渡し、留学初期の状況に関する回答を依頼し、回答に即して半構造化面接を行った。U6とU7は、面談の都合がつかず、郵送により質問紙を送付・回収した。(2)帰国後調査(留学後期)：U群は帰国後約2～3カ月、N群は帰国後約8カ月が経過した時期に、協力者の在籍する日本の大学において質問紙を手渡し、留学の終盤における状況の回答を依頼した。面談の都合がつかなかったN1とN4は、郵送により質問紙を送付・回収したが、他は直接会って、記入内容をもとにした半構造化面接を実施した。N4は帰国後調査に参加しなかったため、分析対象から外した。<質問項目> 田中(2000, p64)のネットワーク質問紙にない、まず5人以上最大10名までのネットワーク構成員を挙げてもらい、その性別・年齢・国籍・回答者との関係・援助期待・関係の満足度・信頼度・接触回数を探った。加えて、話題・既知性・近接性も探った。<分析> 属性については、ネットワーク構成員の中での該当者の割合を求めた。各サポートはそれが期待できる者、満足度は大変・やや満足な者、依存度は依存度合いが等しい者、接触頻度は毎日か週1回以上の高頻度接触者、話題はその話ができる者、既知性は既知の者、近接性は同都市居住者の割合を求めた。

【結果と考察】 留学初中期と終盤におけるネットワーク構成員をみると、アメリカ人が約半数を占めており、日本人と他国人は二割台である。ホストとの関係性の構築には、積極的といえる。いずれの国籍の者も、同年代の学内者が多く、

身近なネットワークを作っているが、アメリカ人は遠くに住む者とも割とつきあう。物やお金のサポートは、サポートの中では比較的少なく、アメリカ人よりは日本人に期待している。初中期の勉強のサポートは、アメリカ人に多くを期待しているが、終盤はリソースに広がりが見られる。相談やコンパニオンシップの期待できる関係は、総じてアメリカ人では時期的な違いが希薄だが、日本人と他国人では終盤に増える傾向がある。個人的な話のできる関係も、日本人や他国人では終盤のほうが多めである。終盤では、既知の関係は一人もいなくなり、渡米後に新たに構築した関係によってネットワークが構成されるようになっていく。なお初中期と後期のアメリカ人構成員は、U6では0%と10%、U2では30%と25%であった。他の協力者では40～60%と、50～80%である。総じてホストとの関係構築は良好な中で、上記は希薄な例といえる。

Table1 N・U群におけるネットワーク構成員の国籍(%)

	日本人	アメリカ人	それ以外	合計
留学初期	21.1	50.0	28.9	100.0
留学後期	27.9	48.5	23.5	100.0

Table2 N・U群におけるネットワークの質

項目	アメリカ人		日本人		他国人		
	①初期	②後期	①初期	②後期	①初期	②後期	
属性	男性	60.0%	41.4%	57.9%	42.1%	34.6%	43.8%
	女性	40.0%	42.4%	42.1%	57.9%	65.4%	56.3%
	同年代	84.4%	87.9%	84.2%	100.0%	100.0%	93.8%
	学内	73.3%	84.9%	79.0%	89.5%	88.5%	93.8%
サポート	a.勉強	86.0%	78.8%	42.1%	89.5%	50.0%	68.8%
	b.相談	80.0%	84.9%	73.7%	89.5%	57.7%	75.0%
	c.楽しむ	73.3%	93.9%	73.7%	94.7%	92.3%	100.0%
	d.物やお金	28.9%	12.1%	47.4%	26.7%	30.8%	25.0%
	e.情報	93.3%	87.9%	84.2%	68.4%	57.7%	62.5%
関係性1	関係満足度	93.3%	87.9%	63.2%	94.7%	100.0%	100.0%
	相互依存度	48.9%	63.6%	47.4%	79.0%	65.4%	68.8%
	接触頻度	80.0%	72.7%	94.7%	94.7%	80.8%	93.8%
会話	a.個人的	77.8%	69.7%	79.0%	89.5%	60.0%	81.3%
	b.一般的	91.1%	100.0%	100.0%	100.0%	96.0%	100.0%
関係性2	既知性	11.1%	3.0%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	近接性	68.9%	66.7%	84.2%	100.0%	92.3%	87.5%

【引用文献】

高濱愛・田中共子(2011)「在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク(1)―事前セッションによるソーシャル・スキル人為学習者における検討―」日本応用心理学会
 田中共子(2000)『留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・サポート』ナカニシヤ出版
 (たなか ともこ・たかはま あい)